

平成28年12月5日

「無事故を目指して」説明会のまとめ

1. キーワード 「気づく」・「確認運転」(2度見る)
2. 何故、事故が起きるのか「確認していないから」「認知していない」「しっかり視ていない」
運転のメカニズム： 認知・判断・操作
3. 目的・目標をしっかり持つ 基本は運輸安全マネジメント PDCAサイクル
4. 考え方：「管理者が変われば、乗務員も変わっていく。」「真」に変わることが重要。
5. 事故はヒューマンエラー (うっかりミス、意図的な不安全行動)
6. 同じ立ち位置(上から目線は逆効果) 「みんなで決めて、みんなで実行」
気づく、連帯感、→ 乗務員の心に響く
結果「信頼関係」が生まれる。
7. 目標達成のために「面談」を実施する。カウンセリングを応用
「面談」の姿勢は怒らない、叱らない (原因など一緒に考える)「なぜなぜ分析」
「面談」の方法は傾聴・共感・肯定(否定しない。)
乗務員(〇〇さん)あなたが必要であることを通告する。
目標管理・・・(例)信号を守る、左右確認する。
九州大学教授『一時停止は二度停止、車間距離は4秒間』7割の事故削減出来る

重要なのは どんな思いでハンドルを握っているのか、
辛くはないのか。
事故惹起者には、その時何を考えていたのか。
乗務員の心を聴く。どうすれば良かったのか。
面談の中で「気づき」を見つけていく。
8. 運輸安全マネジメントを実施した会社
50%事故経費を削減している。
9. 管理者の言動 毎日、無事故で帰社した乗務員へ乗務後点呼の時に思いっきり「褒める」こと。
『気をつけて』は自分のため？
抽象的な表現よりも具体的に判りやすい表現で説明する。
10. 事故防止策 ①今日の目標シール
②無事故の乗務員に聴く。 何に気をつけて運転しているのか、その内容を事故惹起者へ伝える。
③優良な乗務員は、自分の運転について今日の運転はどうであったか。「振り返り」をしている。
11. プロ意識 プロドライバーとしての意識をした運転。
デイ・ライト、「安全意識の心」にスイッチON